

## 再 評 価 調 査 書

I 事業概要					
事業名	街路事業				
地区名	都市計画道路 <small>たけとよこう</small> 武豊港線				
事業箇所	愛知県知多郡武豊町字道崎 <small>どうさき</small> ～武豊町字長尾山 <small>ながおやま</small>				
事業のあらまし	<p>(都)武豊港線は武豊町を南北に通る(都)六貫山線<small>ろっかんやま</small>から武豊町の中心市街地を通り都市幹線道路の(都)衣浦西部線<small>きぬうらせいぶ</small>に至る地区幹線道路で、国道 247 号などに接続しており、武豊町の東西道路軸を形成する重要な道路である。</p> <p>また、武豊町の都市計画マスタープランにおいては、武豊町役場周辺を町の商業・サービス・居住等の中心拠点に位置付けており、中心拠点を通る(都)武豊港線は地区の幹線道路に位置づけられている。さらに、愛知県地域防災計画においては第二次緊急輸送道路として指定されており、防災上も重要な路線である。</p> <p>このうち、当該事業区間については、武豊町の中心拠点へのアクセス道路としての機能が求められているが、名鉄河和線踏切部が一方通行の変則交差点になっていることから、走行性が確保されていない。また、当該事業区間の南側では武豊町施行の土地区画整理事業が行われ、街づくりが進められているが、歩道が未整備であり、歩行者や自転車等の安全が確保されていない。</p> <p>このため、「中心拠点へのアクセス機能の強化」「交通安全対策の強化」「緊急輸送道路の強化」を主な目的として、(都)武豊港線の現道拡幅整備を実施するものである。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>① 中心拠点へのアクセス機能の強化</p> <p>② 交通安全対策の強化</p> <p>③ 緊急輸送道路の強化</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>				
計画変更の推移		事前評価時 (H24)	再評価時 (H30)	変動要因の分析	
	事業期間	H25～H31	H25～H34	土地区画整理事業の遅延によるもの	
	事業費（億円）	8.6	8.0		
	経費内訳	工事費	3.1	3.3	精査によるもの
		用補費	5.0	4.4	精査によるもの
その他		0.5	0.3	精査によるもの	
事業内容	現道拡幅 延長 230m 幅員 16m 2車線	同左			

II 評価

①事業の必要性の変化

1) 必要性の変化

【事前評価時の状況】

①中心拠点へのアクセス機能の強化  
 武豊町の中心拠点へのアクセス道路となるが、名鉄河和線踏切部が一方通行の変則交差点となっており、円滑な交通機能が確保されていない。また、交通量は 8,550 台/日 (H22 センサスペース)、旅行速度は 22.0km/h (H22 センサスペース) となっている。

②交通安全対策の強化  
 当該事業区間の南側では武豊町施行の土地区画整理事業が行われ、街づくりが進められているが、歩道が未整備であり、歩行者や自転車等の安全確保が求められている。

③緊急輸送道路の強化  
 愛知県地域防災計画において第二次緊急輸送道路に指定されているが、歩道もなく家屋が近接しており、災害時には沿道家屋の倒壊により、緊急輸送道路として機能しない恐れがある。

【再評価時の状況】

- ・ H27 センサスペースでは交通量は 8,266 台/日、旅行速度は 20.1km/h となっている。

【変動要因の分析】

- ・ H22 センサスペースに比べ、H27 センサスペースでは交通量はわずかに減少 (284 台/日減少) しているが、今後、土地区画整理事業の概成に伴い交通量の増加も見込まれ、事業着手時と同様に当該事業区間の整備が求められている。

判定

**B**

A : 事業着手時に比べ必要性が増大している。  
 B : 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。  
 C : 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。

【理由】

- ・ 名鉄河和線踏切部が変則交差点であることから中心拠点へのアクセス道路としての走行性が確保されておらず、歩道が未整備であるため歩行者や自転車等の安全が確保されていない。また、災害時の緊急輸送道路の強化が必要であることから、事業の必然性は依然として高い状況であるため。

②事業の進捗状況及び見込み

1) 進捗状況

【事業計画及び実績】

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
工種区分	調査・設計	←						→				
	用地補償		←						→			
	工事									←	→	
事業費(億円)	当初計画	6.5			2.1							
	実績	2.7										
	今回計画	2.7			5.3							

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況	
	計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	進捗率(%)【②÷③】
延長(km)	0.23	0.00	0%	0.23	0%
事業費(億円)	6.5	2.7	42%	8.0	34%
工事費	1.0	0.0	0%	3.3	0%
用補費	5.0	2.6	52%	4.4	59%
その他	0.5	0.1	20%	0.3	33%

※用地進捗率(面積ベース)は 50.1%

【施工済みの内容】

- ・ 部分供用済みの区間はなし。

2) 未着手 又は長期化の理由	土地区画整理事業にて用地の確保を行っているが、土地区画整理事業の遅延により、当該事業の完了予定が3か年遅れた。	
3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業が進捗しており大きな阻害要因はないが、用地を取得中であるため、用地買収の完了に向けて引き続き交渉及び土地区画整理事業と調整を行っていく。</li> </ul> <p>【今後の見込み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用地補償は事業費ベースで約59%の進捗状況となっている。今後も引き続き用地取得及び土地区画整理事業と調整を進め、工事に着手することにより、平成34年度に事業完了する見込みである。</li> </ul>	
判定	B	<p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> <li>・これまで事業長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> <li>○これまで事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> </ul> <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>
		<p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業の遅延により完了が遅れたが、引き続き用地取得及び土地区画整理事業と調整を進め、工事に着手することにより、平成34年度に完了が見込めるため。</li> </ul>
<b>III 対応方針</b>		
<b>継続</b>	<p>中止：上記①～②の評価で一つでもC判定があるもの。</p> <p>継続：上記以外のもの。</p>	
<b>IV 事後評価実施の有無と主な評価内容</b>		
<p>■対象（事業完了後5年目） □対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p>—</p> <p>【主な評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通量（全車、大型車）、旅行速度、混雑度を定量的に評価する。</li> <li>・自転車、歩行者の通行の安全性に関する地元の満足度（アンケート）を評価する。</li> </ul>		